

第1回三次市総合計画審議会 議事録

日 時	平成25年7月19日（金） 14時～16時
場 所	十日市コミュニティセンター1階ホール
議 事	(1) 審議会会長の選任について (2) 総合計画の策定について
委 員 等	<p><出席委員></p> <p>【会長】伊藤 敏安／広島大学 教授 安藤 由子／国際ソロプチミスト三次 会員 伊藤 優子／三次市文化連盟 理事 岩崎 積／青少年育成三次市民会議 会長 小林真理子／三次市PTA連合会 会計 小山 理恵／三次市保育所保護者会連合会 監査 田原 和彦／三次市広域商工会 会長 田村 眞司／三次市住民自治組織連合会 会長 田村 武敏／三次市社会福祉協議会 会長 邊見 俊宗／三次地方森林組合 代表理事専務 細川喜一郎／三次商工会議所 副会頭 前田 茂／財団法人三次市教育振興会 理事長 箕田 英紀／三次市公衆衛生推進協議会 会長 村山 朋子／三次市女性連合会 理事 安信 祐治／三次地区医師会 理事 山岡 克巳／財団法人国際交流協会 副会長 猪森 正一／国土交通省中国地方整備局三次河川国道事務所 所長 清本 久子／広島県北部厚生環境事務所・保健所保健課 課長 西本 寮子／県立広島大学 教授 岡崎 薫／市民まちづくり塾1 副座長 馬場 博通／市民まちづくり塾2 座長 深水 顕真／市民まちづくり塾3 座長 升井 紘／市民まちづくり塾4 座長 田村 謙宗／市民まちづくり塾5 副座長 月橋 寿文／市民まちづくり塾6 座長 正光 祐希／市民まちづくり塾 委員 的場 由樹／市民まちづくり塾 委員</p> <p><欠席委員></p> <p>富野井利弘／三次農業協同組合 代表理事専務 信國 秀昭／一般社団法人三次市観光協会 会長 脇本 修自／日本赤十字広島看護大学 事務局長</p> <p><事務局></p> <p>藤井 啓介／三次市地域振興部 部長 長田 瑞昭／三次市地域振興部企画調整課 課長 宮脇 有子／三次市地域振興部企画調整課企画調整係 係長 杉谷 幸浩／三次市地域振興部企画調整課企画調整係 永井 宏明／ 同 上 林 美絵／ 同 上</p>

1 開会

(事務局)

それでは、ただいまから第1回三次市総合計画審議会の開催を致します。

本日は大変皆様ご多用なところご出席頂きまして、誠にありがとうございます。会長が決定致しますまで、本日の会議の進行を務めさせていただきます、地域振興部長の藤井と申します。よろしくお願い致します。

それでは、開会にあたりまして、三次市長増田和俊がご挨拶を申し上げます。

2 あいさつ

(増田市長)

<あいさつ(略)>

(事務局)

ここで、市長から委員の皆様にご挨拶を直接任命書をお渡しし、お願いをするのが本意ではございますが、それぞれの席に配布させて頂いております。よろしくお願い致します。

なお、期間につきましては、本日から平成27年7月18日までの2年間でございますので、重ねてよろしくお願いを致します。

それでは、ここで審議会の委員に就任頂きました皆様のご紹介をさせていただきます。

<各委員紹介(略)>

市長はここで退席させていただきます。何卒ご了承頂きますようお願いを致します。

続きまして、事務局の紹介を致します。よろしくお願い致します。

<事務局紹介(略)>

3 議事

(1) 審議会会長の選任について

(事務局)

本日の出席委員は27人でございますので、定足数に達しております。

これより議事に入らせて頂きたいと思っております。議事1の審議会会長の選任についてお諮り致します。

三次市総合計画審議会条例第4条第1項の規定によりまして、当審議会の会長は互選により定めることになっております。また、運営規則の規定によりまして、投票または指名推薦の方法により選出することができますが、事務局一任という声があがりましたので、事務局から提案させて頂いてもよろしいでしょうか。(各委員了承)

それでは、事務局から伊藤敏安委員をご提案させていただきます。(拍手、各委員了承)

審議会運営規則第2条第2項の規定の指名推薦によりまして、委員の皆様のご指名推薦により、伊藤委員を会長に決定させていただきます。これより、審議会運営規則第6条の規定によりまして、会長に審議会議長をお願いしたいと思います。

伊藤会長、ご就任のご挨拶をして頂きまして、その後、進行の方をよろしくお願い致します。

(会長)

広島大学の伊藤と申します。僭越ではございますが、審議会の会長ということで、皆様方と一緒に運営していければと思っております。

議事に入ります前に、3つほど私なりの考え、要望、意見を述べさせて頂ければと思っております。

まず1点目、先ほどの市長の話にもありましたように、総合計画に関わる取り組みというのは、非常にユニークだろうと思います。こういった取り組みはその都度、Facebookやパソコンで見ることができると思います。まちづくり塾を開いたり、その代表の方が参加されたり、あるいは住民自治組織の意見を吸収したり、という取り組みをされています。

今回、この審議会で総合計画を作ることになっておりますが、総合計画を作っておしまい、というのではなく、今までの盛り上がり、まちづくり塾や、住民自治組織の取り組み等を今後ともプロセスとして生かしていく。できた後、それをどう実現していくか、ちゃんと計画通りに動いているかどうか、その都度モニタリングあるいはチェックしていく。よりよい計画としていくためにも、今後の取り組みがもっと重要になってくると思います。

2点目は、総合計画基本構想は、かつて議会の議決が義務づけられていましたが、地方分権により策定義務がなくなりました。だから、基本構想、基本計画、総合計画というのは作っても作らなくてもよくなったのですが、今、市が取り組まれているというのは非常に重要だろうと思います。何故かという、財政が厳しくなる一方で、少子高齢化に伴い行政サービスの質が問われてきます。今後どういった行政資源、これは人も施設もお金もですが、行政資源をどこにどのように配分していくかということが重要なことだと思います。そういった意味でも、総合計画をつくる、基本的な考え方を明らかにした上で、個別にどう展開していくかという点でも、この計画づくりが非常に重要ということをご承知頂ければと思います。

それから3点目は、本市は、地方交付税、予算、歳入の規模が随分膨らみ過ぎています。複数の町村が合併しているから当然ではないかと思われる方もいらっしゃるのですが、同じような都市と比べても随分多いということで、使えるものは使っておこうという気持ちも理解できないことはないのですが、山が高いと、結局次の谷が深くなるのです。だから、今のうちに、どこにどう使うかということをしっかり考えながら、この計画をつくり転がしていくという具合に進めていければと思っております。

以上3点、計画ができた後にこういったことを思い返しなが、皆さん方と議論できればと思っております。以上です。

議事の前に、2つほど注意事項があります。審議会条例の第4条第3項で、会長に事故があるときには、あるいは欠けたときには、職務代理者を指定するというようになっております。私の方で、その職務代理者として、細川委員様にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(拍手、各委員了承)

それからもう1点、審議会運営規則第10条第3項の規定によりまして、本日の会議録の署名委員をお2人指名させて頂きたいと思っております。これは名簿により、安藤由子委員様と田村謙宗委員様に署名委員をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

(2) 総合計画の策定について

(会長)

それでは議事次第に沿って、以下の審議を進めていきたいと思ひます。

では、まず議事2、総合計画の策定について、事務局から資料の説明をお願いします。

(事務局)

<資料説明(略)>

(会長)

ありがとうございました。

今の説明につきまして、内容、趣旨、考え方などについての質問等ございましたら、挙手をお願いします。

(委員 1 1)

資料 1 5 の白と黒の三角について、三次市の問題点が白三角で、満足度が比較的低い項目が黒三角ということでしたが、黒三角は「観光地へ多くの観光客が訪れている」など、プラス、良い面の記載になっています。この辺りの解釈を説明して頂ければ。

(事務局)

資料 6 の 4 6 頁を参考にして頂ければと思いますが、満足度のグラフが見て取れます。これはアンケートの項目でございまして、例えば、満足度が低い側に 1 7 番がありますが、1 7 番は「観光地へ多くの観光客が訪れている」という項目です。資料 1 5 には、アンケートの項目、問いがそのまま言葉として載っておりますので、そうお考え頂けたらと思います。

(会長)

よろしいでしょうか。他にご意見等ございますか。

ないようでしたら、特に資料 1 4、資料 1 5 について、ご意見をお伺いできればと思います。

三次市の基本理念、まちづくりの目標は条例で決まっております。現在の「百年物語」は、こども、健康・福祉、文化・学習、産業・経済、環境、都市といった 6 つの柱ごとに、具体的な施策、事業等が並んでいますが、随分早く変化するものもありますし、ゆっくり変化していくものもあります。

そういった変化の方向を踏まえながら、新しく総合計画をつくるとしたらこういった視点が必要ではないか、といったことを、皆様のそれぞれの立場からご発言をお願いできればと思います。今まで自治組織、市民アンケート、まちづくり塾等多数重ねられておりますので、そういった議論が十分反映されているかどうか、といったことも含めて、順番にご意見をお聞かせ頂けたらと思います。

(委員 1)

まちづくり塾に参加しました。何も知らない状態で参加させてもらったのですが、市民の中には、私のようにまちのことなど何もわからない若い世代が沢山いると思います。そういう世代が、いかに興味を持ってまちづくりに参加していけるか、話をする中で探していけたらいいかなと思います、今回参加させてもらいました。

(委員 2)

私も、何もわからない中で（まちづくり塾に）参加しました。

子育てをされていて、保育所の問題が子育て世代には一番大きな問題となっております。仕事を始めたくても、保育所に入れないという声がたくさんあるので、子育て支援の充実をお願いしたい。

(会長)

案として、事務局の「ひとづくり」というキーワードがあるのですが、更にそれを具体化していけば、今のような子育て支援、働く場、そういったものの両立が、具体的な柱として出てくるということで、結構だと思います。

(委員 3)

甲奴町で会社を経営しております。三次の商工会青年部にも入り、部長をしています。

私もまちづくり塾に参加しました。私はIターンで三次に来て10年ですが、若者が帰ってきていない、若者が外へ出てしまっていて、帰ってきててもここで仕事をしていないということが大きくて、結局は、僕らの世代が不足すると子どもも少ないということになる。そして、今の子ども達も、外へ出てまた帰ってこないという悪循環となっている。市がやることだけではないが、仕事をつくること、そして子ども達に、三次に帰ってきたいと思わせるような教育をしないと駄目じゃないかなと思います。

三次に帰ってきて、商売をやったり、就職したいと子ども達に思わせる。僕らがその仕事を作ったり、環境を整える必要があるのではないかと考えています。

(委員4)

私もまちづくり塾に参加し、色々な勉強、話し合いに参加させてもらいました。

私は、色々な方がそれぞれ問題意識を持ってまちづくりをし、具体的に活動している若い方が多いことにびっくりしました。

それぞれ違った価値観、問題意識を持っているけれど、皆さん方を結びつけていけるような、その柱となるような計画というものができたら、本当に素晴らしいなという風に感じました。

(委員5)

資料の中で、現計画に対する市の評価と、第三者評価というものがありました。

それを読みまして、わからないもの(評価)が沢山ありました。これから総合計画を見直すのであれば、その総合計画(の指標、目標)が達成されたら私は幸せだな、と感じるような計画でなければいけない、という思いがします。

(委員6)

まちづくり塾へ参加しました。今回2点ほど話させて頂きたいと思います。

先ほどから指摘がある交付税の減少という問題です。計画の中ではこれが受け身にとられていて、減少するからこうなるんだ、という書き方である気がします。積極的にどう行動していくか、例えば税源移譲や、特区による税源の開発など、国に向かって働きかける姿勢がこの計画の中にも組み入れられるのではないかと、というのがひとつ。

そしてもうひとつは、(まちづくり塾で)子ども分野に参加し、熱意の込められた先鋭的な意見、色々な意見を聞かせてもらいました。ただ、手続きを経て報告書にまとめられていくと、一般的な言葉にまるまってしまうというところがあって、非常に残念です。例えば「子どもの能力を伸ばす教育の確立」という言葉があるのですが、普通の教育は、子どもの能力を伸ばす教育なわけであえて計画に書くほどの特別な言葉ではない気がするのです。

計画に記述するのであれば、その部分に、ちょっと尖った言葉があってもいいのではないかと、まとめ方の部分として意見を述べさせてもらいました。

(会長)

いずれも重要なご指摘だろうと思います。尖ったというのは、まちづくり塾の雰囲気伝えるような表現を生かして欲しいということですね。分かりました。

(委員7)

まちづくり塾で、環境・安全分野に参加しました。約20年前に東京からIターンできました。

私が今考えているのは、東北大震災の前とそれ以降では、日本人の考え方もだいぶ変わってきたのではないかとことです。

広島というのは、昔は地震がない地域ということでしたが、三次にも当然断層はあるし、可能性は残っています。震災とか災害が発生しても対応できるシステム、まちづくり、ひとづくり、そういったものが今回の計画の中で生かして頂ければと思っております。

(会長)

安心・安全のまちづくりというようなキーワードが重要になってくるということでしょう。

(委員 8)

まちづくり塾では、医療、介護、福祉分野で参加しました。まちづくり塾を通して、福祉分野に限らず、広くまちづくりという色々な研修にも参加させてもらい、まちづくりというのはどういうものなのか、ということも勉強させてもらいました。

介護、医療分野に日頃業務として携わる中で、安心・安全は、福祉、医療でも非常に大事です。今後は、いかに地域で暮らしていくのか、施設、建物からまちの中でどう暮らしていくのか、という観点から、人のつながりが非常に大事になると思います。

この少子化の中で、子どもが三次に帰ってくるかどうかというのは大きな問題で、もちろん三次へ帰ってきて、たくさん活躍してもらいたい部分もあるし、たとえ外にいても三次のことを忘れないで、三次の役に立ってもらえるような、外での活躍という部分も求めて、つながりというのは大事にしていきたいと思っております。

(会長)

先ほどがハード面の安心・安全としたら、むしろソフト面の安心・安全・つながりというのが重要と思います。

(委員 9)

市長の挨拶にあった、県内で最も住みやすいまちであるということ、これは大きな自信にしているのだろーと思えます。それをもっと生かす、住みやすいまちだと考えておられる所をもっともっと伸ばしていくようなビジョンがあって欲しいと思えます。

それから、三次の特徴として、高校を卒業して進学を志す場合、通える所に大学、進学先が多くないということがあります。多くの人が出たん出て行き、その後、帰りたいと思うまちになっていけばいいなと思えます。いったん外に出ると、離れた所の良さが分かると思えますので、良さが生きるようなまちづくりができればと思えます。

もう1つは、こうあって欲しいなと思うキーワードを申し上げておきたいのですが、せっかく皆さんでこれだけの力を出してこられたわけですから、意識づくり、意識の醸成というのはできているのだと思えます。それを更にのぼして、様々な場面で支え合い、高め合うような、そういうビジョンができれば、と思えます。

(会長)

ありがとうございました。いくつかキーワードが出てきたと思えます。

(委員 10)

三次市は、健康に関して頑張っておられると思えます。健康づくり計画、食育推進計画や、一緒に食べさせてもらえる場に参加させて頂いたという立場から、健康に関する安心、安全の確保といったところで、自らの食について考える習慣、食に関する様々な判断力を身につけていくという、食育に関する部分に加わればいかなと思えました。

健康づくりでは、すでに健康寿命の延伸などは網羅されておりますので、あとは健康だと感じ

る人の割合が増えることや、受動喫煙防止などについて進めて頂けたらなと思っております。

(委員 1 1)

当事務所では、庄原備北丘陵公園の整備、管理、国道 5 4 号、江の川河川側の整備、管理、それから尾道松江線の整備などをやっております。

資料 1 4 で、産業・経済の交流人口の増加というところで、都市の人を呼び込むという仕掛けについて整理されており、これはよろしいかと思えます。

私も、広島県一住みやすいというのは非常に大きな売りであろうと思いました。

要は、住みやすさが県一である、外の人が見たときに、住んでおられる方々がどこがいいと思っているのかが見える。私も外の間人ですが、非常に落ち着いた良いまちだなと思っております。そういった意味で、外部の人が見た時にどうかということを含めて、良いところを確認して、子育て支援など克服すべきところはきちんと整理する。守るべきもの、克服すべきものを整理した将来の計画というのが、重要なのではないかと感想を持ちました。

克服は当然大事なのですが、守るべきものも同じように大事なのではないかなと、そこはきちんと守っていかなくちゃいけないのではないかなと、感想をもちました。

(会長)

確かに誇りを目に見せることは難しいのですが、出来る限り見える化することは重要だろうと思えます。

(委員 1 2)

私は三次市の国際交流協会を代表してということで出ております。

私自身は甲奴町で国際交流法人をやっています、中学生を毎年アメリカに、市の皆さんの援助を頂きながら何十人と出しております。

子ども達が刺激を受けて成果を持って帰ってきて、その後の進路決定のひとつの条件にもなるような、価値のある活動をやっていると思うのですが、地域への浸透ができてない。三次市は、色々な国と交流していますが、そのような取り組みが地元の人に広がっていくためにはどうしたらいいか、ということを考えています。これは非常に内容のあることなのです。今後も続けていけば、良い芽が出るのではないかと思います。

それと、基本計画ですが、社会の流れの中で、どうしたら三次市がよくなるかということもありますが、三次市の条件に有利になるような日本の社会をつくろうという視点があってもいいな、という気がしています。空気に税金をかけるとか、水に税金をかけるとか、そういったことを日本の社会や世界中で一般化していくのを支援して、とりあえず三次がぐっと有利になるというようなこともできたら、非常に面白いなと思えます。

(委員 1 3)

私も市民塾へ医療・福祉の分野で参加したのですが、今日は医師会の代表で参加しています。

資料 1 4 で、一般市民の優先度が高い項目は「子育て環境」「医療」「福祉」とあがっており、我々の分野というのは、満足度という点で貢献しなくてはいけない分野だと思います。

しかしながら現在は、医療分野においても集約化が行われています。今後、診療科の集約も検討されていますし、市内の大きな所では、病院の集約化ということも言われているようです。

そういう中で、市民にどのように応えていけるかを考えた場合、資源だけに頼らない、つまり先ほど話が出た連携だと思うのです。医療、福祉、介護、あるいは住民、地域などと連携する。これはハード面だけではなくて、ソフト面が非常に重要であろうと思えます。

障害があってもその地域で生活していくということは、ハードではなくてソフト面がいると思

うのです。そういったことも考えながら、連携をとっていけたらいいなと思っています。

この地域は、いわゆる都会とは違い、ほどよい田舎であり、こういうことを実現できると思っておりますので、頑張っていきたいと思えます。

(会長)

医療の再編、集約化に合わせて、人の住み方も、今後見直していくという問題にも関連すると思えます。

(委員 1 4)

私は女性連合会から代表で参りました。まちづくり塾や、そのほか色々な所にも顔を出して、沢山の意見を聞き、みんなで考えて、三次がどんどん良くなるのを楽しみに思っています。私も協力したり、してもらったりしてやっていきたいと思っています。

資料 1 4 で、基本理念に「市民のしあわせ」とありますが、「市民」ではなく「私」の幸せを求めていければいいのではないかなど。堅く「市民のしあわせ」だなんて言わずに、もっと一人一人が情熱を持っていけるような言葉を。

ひとづくりも、私は仲間づくりだと思っています。女性会も会員が少なくなっています。若いお母さん方は忙しい。だったら、おじいちゃんおばあちゃんが頑張らないといけんのだと。そういう中で、仲間づくりで今、女性会をつないでいます。

いろんなことを積み重ねていって、いいところにいけるのかなど。二歩進んで一歩下がってもいい。三歩進んで一歩下がってもいい。そういう思いで毎日を過ごしております。これからもこの気持ちは残して、行政の色々なことを考えていきたいと思っております。

(委員 1 5)

私は公衆衛生の推進協議会から出ておりますが、自治組織で地域のひとづくり、まちづくり等のお仕事もさせて頂いております。

三次市内で一番沢山ある資源は何だろうかと考えてみると、里山なり、小規模な荒れた農地でなかろうかと思えます。これを活用して循環型の社会を作っていければ、という考えを持っております。

山は国土の保全にもつながりますし、当然田んぼも国土の保全につながります。山の木がなくなったり、水田がなくなったら、ちょっとした水でもすぐ災害が発生します。国土保全に非常に役立つので、そのあたりを強調した施策を展開していければと考えております。

(委員 1 6)

教育振興会という、経済的に苦しい子ども達とか、家庭の事情で学校に行けないという子ども達を支援している団体の代表で来ています。

議論のたたき台として、ひとづくりが掲げてあります。ひとづくりというのは、市民の意識がいかにか高揚してくるか、ということがキーワードになるのではないかと思っています。当然ものづくりも、ここに入ってくるものと思えます。

以前、三次市を 10 万人都市にしようということが計画に出されましたが、今、5 万 6 千という数字です。地域の意識づけをどのようにもっていくかということが重要ではないかと思っております。市民がいかにか自立すれば、市の活性化のためにそれぞれの分野で力を発揮できるか、ということが、この会議の一つの意味の成すものではないかと思えますし、百年後の子ども達がこの地で活躍できる場ができていくかという構想的な議論も、ここであればなと思っております。今後を期待致します。

(委員 17)

三次商工会議所副会頭，県教育委員会の教育委員も仰せつかっております。その2点から申させて頂きたいと思えます。

商工会議所としては，どうやったら地元の商工業者が潤うのか，ということをもまず考えなければなりません。人口が多ければ沢山買ってもらえますが，先ほどからの議論のように，人口は減っていくということを考えますと，交流人口の増加に期待をせざるを得ない。幸い三次には色々な施設がたくさんあります。大学生を含めた色々な方が三次を訪れて，スポーツ施設を使って頂くよう，会議所としましては以前から，温泉付きの合宿施設を作ってもらいたい，ということをお願いしております。

それから，若者が学校を卒業しても帰って来るところがない。企業誘致は難しいと思えますが，やはり行政のバックアップが重要だと思えます。

また，市教委は，小中一貫を進めておられますが，中高一貫を確立して教育の水準を上げたい。ドクターとティーチャーは地元の子どもを育ててつくる，ということをやりたいなと思っております。

(会長)

具体的な施策の提案までありました。

(委員 18)

森林組合に勤務しております。山が大変荒れており，害獣対策が大変です。今，県民税を使った整備等をやっていますが，高齢化がかなり進んでおり大変難しいです。

しかし，周りには定年退職の方とか，親がいるからこちらに帰ってくる方がかなりいらっしゃいます。そういう方達に働きかけて，新しい産業を作っていくって，里山を整備したらどうかと思えます。新しい産業で活性化し，元気がある地域づくりを進めたいと思っております。

(委員 19)

社会福祉協議会の会長を務めております。

社会福祉協議会は，支え合い，助け合い，住み慣れた地域で，三次市の全ての人が元気で安心して暮らす地域づくり，まちづくり，職員一体となって頑張っています。

安心ということでは，老後も色々な施設があって，子どもと同居できない場合には，施設でしっかりみますよ，ということをお願いしていけば安心して暮らせます。

また，社協では，生活支援ネットワーク事業の中で，職員が聞き取り調査したり，アンケート調査したり，出前講座という形で出向いております。社協だけではどうにもならないことは，全ての方々に協力，援助して頂いて，三次市に住んで良かった，住みたい三次市ということで，頑張っているところです。

三次が何故県一か，それは，施設がしっかりしていて，医者もかかりつけ医と三次の中央病院が中心であり，いざという時にはヘリコプターで広島へ行くというような，医師会も一体となってやられている。市長も元気なまちづくりをするのだということで，頑張っておられます。

私どもも，市民が安心して暮らせる三次市ということで頑張る。人口を増やすと言いましても，三次に住んでいる者が幸せでなければ集まって来ない，という気持ちを持っております。三次はこれから将来伸びるまちになるのではなかろうかという希望を持っています。

それから，教育のことを。以前，家庭では厳しい親からのしつけがございました。やはり家庭でしっかり基礎を作って学校の先生に預けないと，学校の先生は非常に困っておられるのです。全部教育するのは難しい問題がございます。

(委員20)

私は三次市住民自治組織の代表ということで、この場へ出させて頂いております。

平成18年に「百年物語」ができて、わずか8年で、方向が変わってきたから新しく作るということは、非常に残念だと思います。少なくとも今回のビジョンについては、そんなことが言われないような、言葉遊びではない、実際に三次市の為になるビジョンというものをに入れて頂きたい、という思いです。

私もUターンで、27歳の時に東京から帰ってきております。あれから三十何年、地域づくりを頑張っていますが、今もまだ中心でやっているような状況です。若い世代も頑張っておられると思うのですが、地域づくりに若い世代がなかなか参加してくれないという、非常に大きな課題があります。若い世代に切れ目なくつなげる、ということでも、若い世代が是非とも参加できるようなまちづくりというものをやって頂きたい。

市民と行政の協働のまちづくりビジョンということになっているので、行政サイドだけで物事を考えるのではなく、市民が「こういうのをやろう」と出したものが、確実にビジョンとして載るような計画にしてもらえればと思います。

(委員21)

三次広域商工会の経済団体を代表して参加しました。

地域の商工業者にとって、三次市の少子高齢化は、大変厳しい環境のもとにおかれているというのが現況です。昨年、商工会では中長期計画を作りまして、賑わうまちづくりをいかに進めるか、ということを探しているわけですが、その中の項目に、交流人口の増加を取り上げております。子どもはこれをもう一步掘り下げて、交流定住という、交流の満足度が高ければ、定住してくれる気持ちが高まる、これをどうにか仕掛けられないか、この辺を重点的に考えているところでございます。

(委員22)

私は三次市保育所保護者連合会として来ました。また、三次市PTAの保護者連合会、母親代表、児童クラブの指導委員として子ども達に関わっております。

10年前の資料では、10人に1人、発達支援が必要な子がいるとのことでしたが、現在では5人に1人という状況の中、発達障害の子どもへの支援と、就学後の子どもたちへの支援がこのプランにない、というのが気になりました。それから、医療、子育て、教育、福祉がつながっていないのが気になりました。発達支援が必要な子どもが5人に1人いるということは、福祉、教育、学校がつながらなければならない。そして、その子ども達を育てるお母さん達のフォロー、地域の皆さんがお母さんを支えれば、虐待防止にもつながると思います。あとは、三次市には、そういった子ども達が義務教育を終えた後のフリースクールがない。

障害を抱えた子ども達が、成人しても安心して三次で生活できるように、生まれてから死ぬまでの流れが三次市の中にあればなと思いました。

(委員23)

三次市PTA連合会の方を代表してきました。

私は子育てをしながら病院で勤務していますが、いろいろな面で環境づくりが必要なのかなと思います。先日もテレビで、子育ては三世代家族や大家族の中であるのが一番いいと言っていました。今はその環境が少ない。保育で言うと夜間保育が少なかったり、仕事で言うと安心して働ける環境、若者や学生が卒業した後に、働ける所がない。帰ってこれる環境もないので、三世代で一緒に住もうかなというのは、現実には難しいと思います。

若い人たちが都会に行くので、三次市ではマンパワー不足が進んでいる状況にあります。

皆さんが安心して、安全に生活できるような環境づくりが必要なのだと思います。三次市の若者が今後沢山帰ってこられることを期待しております。

(委員 2 4)

少子高齢化、これはどうしても避けて通れない。私達のところは、言うならば少子高齢化の先進地になっているわけです。私の地域では、流入人口が1割増えています、全体的には減ってきていて、これからもどんどん減っていく。そうしたら、増やすことばかり考えても仕方ない。増やすには限度がある。自分達のまちはどこまで減ったらアウトになるのか、人口が減っても、こういうやり方をすれば支えていくことができる、そういう観点から地域を見ていくのも必要ではないだろうかと思ひます。そういう分野を加えて欲しい。

それからもうひとつは、住みたいまちづくりも、基本は市民のやる気ということですが、やる気を出すには市民と行政との協働的な作業が必要になってきます。今の行政と市民には階段があるわけです。市民がしたことを行政が評価していく。ある程度の評価というものが必要なこととは思ひますが、やはり協働のまちづくりというのは、民が官の中へ入って行ってそこでできる、そういうまちづくりを目指して欲しい、という気がします。

(委員 2 5)

私は文化連盟の理事として、ここに来させてもらいました。文化連盟としての発言ではないのですが、そのところは勘弁して下さい。

市長の挨拶で、三次はとても住みやすいという話がありましたが、一体どこが住みやすいのだろうかと思ひます。私達も住みやすい地域を目指して取り組んでおりました。でも、地元の小学校が小中一貫校ということでなくなり、保育所も廃止になりました。大学へ出て帰ってこないというのがありますが、仕事がないというのはもちろん、小学校も保育所もなくなってしまった地域へ、誰が帰りたいと思ひのでしょうか。

バスも、1日1往復だけでは役に立たない。車がなかったらこの地域は住めない。そんな状況があるのに、三次市は住みやすいと言えるのだろうかと思ひます。

甲奴町へ行くのにも道が狭いです。インフラ整備もして欲しいし、地元から保育所、小学校をなくしたりしないで欲しい。

また、文化・学習のところの「男女共同参画の推進」という点で、女性の活動の場が少ないとあります。確かに活動の場は少ないかもしれませんが、女性にしかできない仕事があるよ、みたいな言い方をされると、女性にばかり仕事が集まります。それを女子ばかりが集まって話をしても意味がない。男性も含めてジェンダーフリーの話をして欲しいと思ひます。

(委員 2 7)

国際ソロプチミスト三次から代表で来ました。

私は自分が三次で生まれ育ったので、三次町のことについて話をします。7年前のみよし夢ビジョン 100年会議にも参加しました。

三次町には三次小学校、中学校も、ふれあい会館もあって、とても便利なところだと思ひます。でも今、子どもがいなくて、学校の規模も小さくなり、残念なことだと思ひます。三次町は、住民の高齢化が進み、空き家、空き地が多くなり、駐車場になっています。

三次に住む若者達が今、歴まちづくりと頑張ってる方もいますけど、古いものばかりではなく、若者が住める集合住宅とかを作るなど、新しいまちづくりのチャレンジも必要ではないかなと思ひます。そのあたりの意見を聞かせてもらえればいいなと、楽しみにしてあります。

(会長)

少し時間を過ぎましたけれども、言い忘れとかございましたらどうぞ。（意見なし）

それでは、時間も過ぎておりますので、今日のような貴重な意見を踏まえて、今後どうするかということを事務局の方から最後に説明して頂ければと思います。

（事務局）

今後、8月中旬から下旬にかけて、骨子案について審議頂くように計画しております。

ただいま資料14の下側が空白になっていると思います。まちづくりの基本的視点になるところ、今、色々と出されたご意見、市民まちづくり塾や住民自治組織、そして市民アンケートでも出された意見を踏まえまして、基本的視点となる案を作成し、更に政策の柱等も考え議論して頂けるように考えておりますので、お願い致します。

また資料16で説明させて頂いておりますが、11月中旬から下旬にかけては、総合計画素案を準備しまして、皆様のご意見をお聞かせ頂きたいと思っております。その時には、諮問というかたちで、皆様にお諮りをしたいと考えております。

それから、平成26年の第4回会議で、総合計画最終案について答申を頂く予定としております。これからもよろしくお願い致します。

4 閉会

（会長）

今、スケジュールの大まかな説明がありましたが、よろしいでしょうか。次回は8月中旬から下旬ということですので、また案内があるかと思います。

それでは以上で、第1回審議会を終わりたいと思っております。長時間ありがとうございました。

（事務局）

大変長時間に渡り、ありがとうございました。

本日のご意見等を取り入れながら、次回は基本的視点のたたき台を作りたいと思っておりますので、またご意見を頂ければと思います。

最後に、今後とも本市の行政運営に対しましてお力添えを頂きますようお願い致しまして、会を終了させて頂きたいと思っております。本日は大変ありがとうございました。

以上、この会議録が正確であることを証します。

平成25年7月19日

三次市総合計画審議会 議長（会長）

委員

委員